

311ゼミ テーマ③

「次世代に繋ぐ放射線教育」
～放射線教育・防災教育の現状を知り、次世代教育の在り方を知る～

活動報告

メンバー

千田 翔太郎 (栗原市)

小山 師基 (天栄村)

中村 悠人 (八戸市)

黒須 陽佳 (白石市)

目的

- ①放射線教育・防災教育の現状を知る
- ②放射線教育の課題などを研究する
- ③放射線教育の在り方についての提言をまとめる
- ④原発事故を次世代に伝える

1年間の活動

- 6～7月 放射線教育について個人調べ
- 8月 個人で調べたことの情報交換
- 9月 福島大学、福島県教育庁聞き取り
- 10～12月 インタビューの起こし
- 1月 まとめ

①個人調べ

放射線教育についての論文を読む（黒須陽佳）

副読本やDVDで調べる（中村悠人）

原発事故関連で活動している団体について調べる
（千田翔太郎）

各市町村の教育委員会のホームページやパンフレットを見て現状を整理する（小山師基）

②確認と調査

福島大学

- ・危険性も教える、防災教育の内容を含んだ放射線教育が必要
- ・理科以外の授業の中にも放射線教育の要素を含んでいくことを推奨している
- ・各教科の教科書に散りばめて行っていくのが有効策

福島県教育庁義務教育課

- ・放射線に関して正しい知識、正しい判断ができる人を育てることが目的。
- ・中立的・客観的な知識を伝えることを意識。
- ・1校につき42時間以上授業をすることになっている。実施率は100%。
- ・平成23年度から指導資料を発行しており、毎年改定している。DVDや活用版も出ている。
- ・地区別研究協議会など放射線教育の研修会が毎年開かれている。
- ・子供の疑問から学習に発展させていく。
- ・今までの緊急避難的な位置づけの放射線教育から、問題解決的な放射線教育に変遷中。地域を巻き込んだ放射線教育を目標としている。
- ・子供だけでなく、保護者も含めて、日本全国に放射線教育を広げていくための研究をしてほしい。

活動の成果

- ・ 福島県における放射線教育の現状や課題を知ることができた
- ・ この1年間でようやくスタートラインに立てた
- ・ 来年度以降は今年の活動で見つけた課題について、掘り下げていきたい

今後の課題・調べたいこと

- ・ 様々な教科で行われている放射線教育の授業を参観したい。
- ・ コミュタン福島や廃炉資料館、リプルン福島など原発に関する資料館を見学し、教育や子供の将来のためにどのように生かしていけるのか考えたい。
- ・ 今後どのような放射線教育が求められるのか研究したい。